



『ロータリー所感』

富田 哲雅 会員

私は、JCを40歳の定年で卒業してから半年後の2001年7月に龍野RCに入会させて頂き、それから何と20年が経過しました。思えば、本職を別にすれば、学校や任意団体を含め如何なる組織より、最も長く在籍することになりました。それでも、自分ではまるでベテラン会員の自覚はありませんが、これは、恐らく、ロータリーで顕著な働きをして来なかった証でしょう。

龍野クラブに入会した頃は、メンバーも70人を超え、初代会長以下、錚々たるメンバーで、若輩の私はロータリーに入会させて頂き幸運であったと感じるとともに毎回の例会出席には適度な緊張が伴いました。その頃、日本という国も、バブル崩壊後とは言え、まだまだ勢いがあり、世界経済を牽引しているという自覚がありました。

ところが、どこで、日本は次の時代への判断を誤ったのでしょうか。まだまだ成長路線を続けるべきであるのに、成長より成熟を良しとする風潮が生まれました。1番ではなくても2番で良いとするリベラルの意見やゆとり教育という言葉さえ生まれました。そして、長いバブル崩壊のトンネルを抜けると、日本は様変わりしているのに気づきました。例えば少子高齢化の進展や先端技術開発の遅れ、社会システムの制度疲弊、中流階層の崩壊など。いつの間にか、かつての後進国にも追い抜かれ、広く格差社会が到来していました。これは誰が悪いとか云う問題でなく、時代の大きな流れとしてなってしまったので仕方がないのですが、これに加えて、昨年から新型コロナウイルスという前代未聞のパンデミックに世界が襲われ、世界はこれを機に大きく変貌を遂げようとしています。アフター・コロナ社会を見据えれば日本の後手の姿勢にどうしても不安を抱く処です。

投資家ジム・ロジャースによると、“危機”という漢字は、危険の“危”と機会の“機”の合成語だそうですが、日本がこの危機を機に復活する機会が見つかることができると希う限りですが、現実には益々混迷しているようにしか見えません。

さて、ロータリーは数年前の西播磨第2地区のIMで久野パストガバナーにより問題提起された如く、現実に変容してしまいました。これはロータリーだけが変わったのではなく、新たな時代を迎え日本や世界が変容したことの結果でしょう。

ポール・ハリスに始まる積年のロータリーの理念や哲学や叡智は、今でも、素晴らしいと考えますが、特に会員の減少を視る今日、会員減少要因は会員の自然退会より新会員の入会が少ない為であることに危機感を覚えます。若い世代にはロータリーの理念や哲

学はもう輝きを見出せないのでしょうか。

現実には、若い世代は、職業観も生活観も社会観も旧来のそれとまるで違って来ています。全体に、組織への忠誠心や競争原理が薄れ、寄らば大樹の陰と申しますか、優良な組織に所属することに意義を見つけようとしています。一概にそれを劣化しているとは申せませんが、自分のことをするのに精一杯で他のことに係る余裕も希望も無いようにも感じられます。

ロータリーは、RIを核として自ら変容しました。但し、決して変えるべきでなかった旧来の原理原則を曲げて迄、大きく変容しました。

先ず、日本のロータリーに於いても、RI路線に沿った結果、ロータリーならではの魅力と思っていた職業奉仕の理念が社会奉仕の一部として、いわば格落ちの扱いとなり、個人的には失望しました。

また、コロナ禍で会員を維持し、新たに増強していく困難さは理解するものの、会員の3大義務である出席が緩和されたり、また、一業種一名の大原則もいつの間にか崩れ、もはやロータリーが形骸化してしまったと感じる会員も多い筈です。そして、この傾向はコロナ後も継続するでしょう。

ロータリーに対する危惧と並行して、社会に対する危惧も大きくなって来ました。

一昔前の弱肉強食の新自由主義の反動で、世間ではダイバーシティなどのリベラルの思想が蔓延り、基本的にはリベラルの考えはある程度までは理解するものの、最近は何れも行き過ぎの観がある様に感じられます。今の時代、勿論、差別は許されませんが、ジェンダーなどの区別は本来尊重されるべきではないのでしょうか。個人的意見ですが。

それといくら言論の自由だとは言え、フェイクや誹謗中傷を含むSNSの投稿は度を越えており、現実には被害者や犠牲者が出現している現状ではこれらについて個人の権利を制限する論議をすることは当然であると感じます。

同様のことがコロナ禍で、民主国家では、ロックダウンが難しく、独裁国家では可能であったことを考えれば、特に危機に於いては、民主主義の行き過ぎを是正した新たな哲学を構築することが必要ではないかと考えます。巷ではドイツのマルクス・ガブリエルやエマニュエル・ドットの思想がもてはやされていますが、これらの時代の流れに対して奉仕の哲学をもつロータリーに何か指針を求めたいところです。

そして、今、パラリンピックが開催中ですが、この度のIOCなどの国際組織の動向に日本の思いとの齟齬が生じている様に、最近のRIの動向と日本のロータリーと乖離が生じていると感じます。加えて日本のロータリーが単にRIの集金システムの一部に成り下がっている懸念があります。無論、RIの存在の尊さは理解するものの、日本ロータリーがポール・ハリスの唱えるロータリーの原点回帰を尊重する気風が損なわれ、RIの支店化が進行していることに危惧を抱きます。

“ロータリーは哲学である”と良く言われますが、日本のロータリーやクラブが夫々の哲学を失えば、ロータリーは特性のない集金を目的とした一般のボランティア団体のひとつになり下がるでしょう。これでは、地域にPRするものがありませんし、世間のロータリーの認知度は低迷し、また新たな会員の勧誘も望めないでしょう。

私は、ロータリーの意義は、ロータリアンが奉仕の理想を抱き、夫々の置かれた立場でそれを実践することを考える哲学を持つことであると考えますが、限られたロータリーの人財と資金で、何とか日本のロータリーの気概を世界に伝え、動かす方法はないので

しょうか。

私は、以前、先輩会員の薦めで、福岡西クラブの廣畑富雄PGの“ロータリーの心と原点”という2006年の著作を読んで感銘を受けたことがあり、その中で、著者は、100年を超えたロータリーの憂慮すべき問題は、すべてロータリーの基本から乖離して来たことに原因があると述べ、問題解決の為に基本に戻ることこそがロータリーの発展につながると提言しています。私もこれに同じくロータリーの原点は維持しながらも、時代の変化に即して変えるべきところは変えるべきとする立場ですが、アフター・コロナを見据え、私なりロータリーの在り方をいくつか以下に提言していきたいと思います。

それでは先ず第1に日本のロータリーがRIの傘下にあっても、日本のロータリーは職業奉仕中心にやっていくとRIに宣言し、RIの考えを基に戻す様に働きかけることです。日本のロータリーが独自路線を歩み、ガラパゴス化する懸念はありますが、日本からロータリーはこうあるべきと働きかけることはできないのでしょうか。

ロータリーの歴史を紐解けば、RIがシェルドンの“*He profits most who serves best*”を使用停止しようとした際に日本の会員の反対で存続することになった例もあります。

先程の廣畑会員の著作でも、“基本から離れていくロータリーを原点に復帰させ、魅力あるロータリーを創ることは逆説的ではありますが、日本の役割であると考え、その為には、RIに提言すべき”と述べています。

第2に、ロータリーで政治を語ることはご法度となっていますが、これがロータリーの展開の足枷になっている様に感じられます。流石に、公式の場で身近な特定の政治家や特定政党を応援することは不適切と思いますが、もっと大局に立った政治思想を語ることは日本を護る為にも必要なことでないかと考えます。世界ではリベラリズムやポピュリズム、民主主義や保守主義、マイケル・サンデルの正義論などの思想が横行するなかで、ロータリーがこれを避けて通るより、真向に議論し、ロータリーの理念を社会に提言していくことこそロータリーの役目であり、奉仕に繋がるのではないのでしょうか。

第3に、ロータリーのプロパガンダの活用です。ロータリーは、奥ゆかしい性格の為、外部に対しての情報発信力が弱く、社会に正しく認知されていないのが残念です。115年を超える歴史を誇るロータリーですが、部外者には何の団体かさえ理解している人は少ない様に感じます。ロータリーの話は偶に地方紙の地域の活動紹介に取り上げられている程度で、ホームページの閲覧数は把握していませんが、世間はロータリーには無関心で、残念ながら認知度と期待はゼロに近い状況です。

この解決には、これまで、タブーとされて来た広告媒体やメディアなどのプロパガンダの積極的活用が必要と考えます。俗に敷居が高いと思われるロータリーが何なのかを広く世間に知って頂くことが、ロータリーに対する理解と会員の増強の近道なのではないでしょうか。

広告媒体にはコストがかかりますが、クラブ単独では不可能であっても、地区や日本ロータリーでは可能なのではないのでしょうか。SNSの活用も今は有効ですが、これらプロパガンダにより、新会員が集まり、本来の活動の為の寄付が増えればメリットの方が大きいのではないのでしょうか。

そして、第4に、政治や行政の活用です。ロータリーの奉仕の実践には、多くの場合、為政者や行政に理解して頂き、協力して頂く必要があります。特に行政を指導する為政

者にはロータリーの理想を正しく伝え、奉仕を目的とするロータリーを理解して頂くことは、必要なことではないでしょうか。また特定の政党に偏らず、是々非々でそれらに意見することは必要なことだと思います。またそうした社会との接点は、逆にロータリアンが見識を高めることにも繋がり、取り組むべき奉仕の対象を見つける機会にもなるでしょう。

現在のフェイクニュースが蔓延る中、正統保守としてロータリークラブが責任ある立場の人やマスコミに意見を発信することは必要と考えます。今は、意見すれば、ネットで叩かれることもあり、何と足を引っ張る者が多いことに呆れますが、誰かがこれを束ね、日本を正しい方向に導かねばなりません。勿論、ロータリーだけでは国は動きませんが、個人的にロータリーにはこの役割を期待したい処です。

令和の日本の国は、至るところに難題が山積しており、その難題を真摯にロータリアンが考えることが肝要であると考えます。ロータリーの大きな目的には世界平和がありますが、その為には、国家に於いても、地域に於いても、各法人に於いても真のリーダーが必要であり、ロータリアンはリーダー足ることを目指すべきだと考えます。それがまたロータリーと地域との共生に繋がるのではないのでしょうか。

新型コロナも、第5波の真っ只中ですが、私はアフター・コロナに於けるロータリーの行方をロータリーならではの親睦を楽しみながら、期待を以て、そして、時に参加しながら見護りたいと思います。

最後に、これまでロータリーについて徒然なるままに述べて来ましたが、前述の“ロータリーの心と原点”の中で廣畑富雄会員の提言された“ロータリーの戻るべき7つの原点”を紹介させていただきます。尚、一部、現在のロータリーと相違するものがありますがご容赦ください。

1. ロータリークラブは知人の集まりではなく、友人の集まりであり、友情を大切にする。
2. サービスの心を大切にする。これは、仕え奉るのではなく、思いやりの心を言う。
3. ロータリーの目的（綱領）と1943年にRIの職業理念となった4つのテストを大事にし、実践することが大事であり、実践すれば高い倫理性や金銭の他、善意、友情、信用が得られる。
4. 一業種一人の伝統やロータリアンはその業種の代表であるという考えを大事にし、また、異業種交流も大事にする。
5. デモクラシー（民主主義）を大事にする。ロータリーは横組織であり、各クラブの自主性を大事にする。
6. ロータリーの外部活動は優れた活動であるが、どんなプログラムもロータリーの限界を意識し、原点に戻り、スクラップ・アンド・ビルドが必要であると説く。
7. 混迷する現在の日本社会の中で、ロータリーの心と原点に立ち還れば、ロータリーの存在意義は将来も大きく必要となる。